

# 「主体性」「目的意識」が学業や生活に及ぼす影響についての考察

## ～ 学力向上と情報モラル意識の観点から ～

岩森正治（玉城町立玉城中学校）・長谷川元洋（金城学院大学）・中村武弘（奈良教育大学）

概要：次期学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」を実現する第一歩として「主体的な学び」についての考察を行った。「主体性」「目的意識」「将来を展望する力」を高めることは、自己コントロール力を高めるとともに、情報モラルを守るためのコントロール力や従来の学力を向上させる。さらに、「主体性」等を身につけさせる手立てとして「家庭での社会の動きに関する会話」を活性化することがその一助となることが分かった。

キーワード：主体的な学習，情報モラル，学力向上，自己コントロール力

### 1 はじめに

次期学習指導要領では、「どのように学ぶか」の方向性において「主体的・対話的で深い学び」の実現を求めている。「主体的に学ぶ」ことは、深い学びが成立するための土台であると考えられる。

第一著者の勤務校（以下、本校と記す）では、5年前から「学力向上」を見据えた教育実践を展開している。2017年度末に教員全員が確認した本校生徒の課題の1つとして、全体的に「言われたことはできるようになったが、自ら進んで行動することはできていない生徒が多い」がある。

そこで2018年度は、研究課題として「目的意識を持ち、自分の意志で、学習したり行動したりできる生徒の育成」を掲げ、実践研究に取り組んでおり、これは、「主体的・対話的な深い学び」の実現を目指す取り組みでもある。

実践研究を行うにあたって実施した実態調査のアンケートから得られたデータをもとに、生徒の「主体的に行動すること」や「目的意識を持つこと」等に関する自己意識のレベルと学習やネットの利用等との間にどのような傾向が見られるかを考察した。

### 2 研究の方法

2010年から毎年行っている生徒対象の「情報機器利用に関するアンケート調査」のデータを分析した。以下に詳細を示す。

(1) 調査対象（データ数） 有効回答率 95.5%  
1年：141名（146中） 2年：171名（180中）  
3年：150名（158中） 全校：462名（484中）

#### (2) 実施時期

2018年6月初旬

#### (3) 主な調査項目

学習時間、就寝時間、自己コントロール力に関する内容、人権意識、家庭での社会の動きに関する会話状況、目的意識をもった行動、情報通信端末の利用時間や利用する機能、通信相手、利用する時の意識、ネット利用で経験したこと、SNSの利用実態、個人情報の取り扱い方などの情報モラル意識等、99項目。

#### (4) 分析方法

調査項目の中で、本校の研究テーマと直接関係すると思われる以下の4つの項目とその他の項目とをクロス集計した。そして、その中から特徴的な関連や差異が見受けられる事柄を見つけ出し、その結果を考察した。

- ①自ら進んで行動を起こしている。
- ②目的意識をもって学習に取り組んでいる。
- ③将来展望を持って行動している。

④社会情勢について家族と話している。

上記の設問の選択肢別の有効な総データ数は以下の通りである。

	思う	やや思う	あまり思わない	思わない
①主体性	97	205	117	43
②目的意識	90	264	79	28
③将来展望	197	161	67	37
④社会会話	92	154	120	96

3 結果

(1) 主体性・目的意識等を持つことと他の自己コントロール力との相関

①主体性(意欲)の設問と他の自己コントロール力(自己認識・自制心・忍耐力・創造性・社会性等)以下 自己コントロール力とのみ記す)の相関

(※ 相関係数は0.2以上が相関あり、0.4以上で強い相関ありを示す)

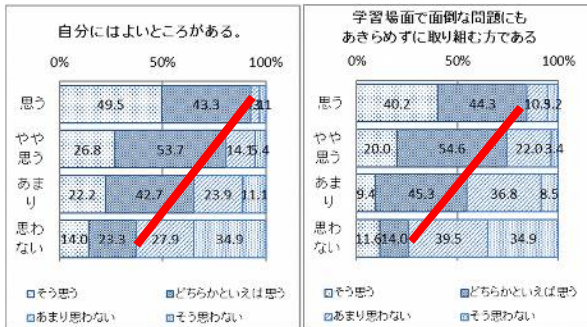


図1 (相関係数 0.36) 図2 (相関係数 0.38)

特に、「自尊感情(図1)」や「粘り強さ(図2)」・「社会性」と弱い相関が見られた。

②目的意識と他の自己コントロール力との相関

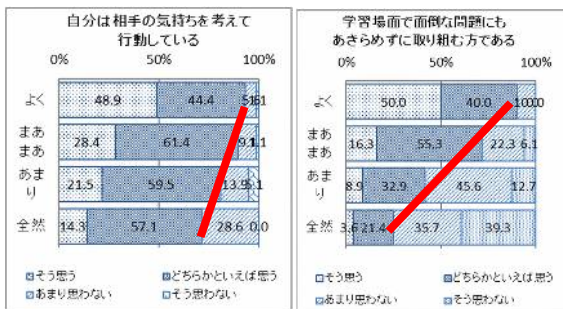


図3 (相関係数 0.23) 図4 (相関係数 0.45)

「目的意識」と「他者理解」(図3)は弱い相関が「目的意識」と「粘り強さ」(図4)はかなり相関があることが示された。

③将来展望と自己コントロール力との相関

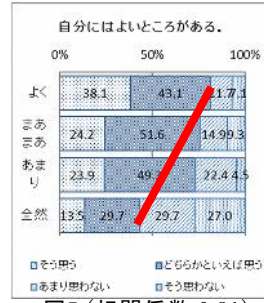


図5 (相関係数 0.21)

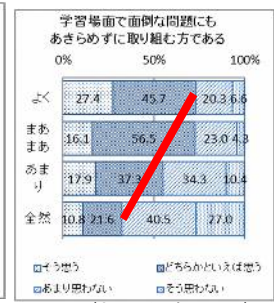


図6 (相関係数 0.23)

「将来展望」と「自己認識(図5)」、「粘り強さ(図6)」についてはともに弱い相関が見られた。

(2) 主体性・目的意識等を持つことと情報モラルに関する行動・意識との相関

主体性や目的意識をもつことが、情報モラルに関する行動や意識とどう関わっているかをみた。

① 主体性に関して

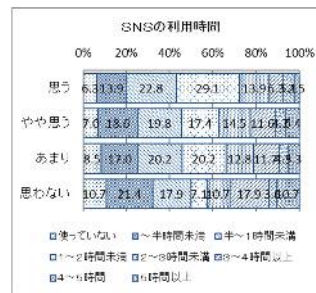


図7

主体性を持って行動していると回答している度合いに関して、一日に通信端末を利用する時間に相関関係は見

られなかったのだが、SNSの使用時間(図7)に関しては、主体性に関する項目で否定的な回答を示した生徒ほど使用時間が長い。この4つのカテゴリーで平均してみると「思う」…94.7分 「やや思う」…107.3分 「あまり」…102.6分 「思わない」…116.3分となった。特に「思わない」と答えた生徒の1日5時間以上使っている生徒の割合が高かった。また、ネットマナーやモラルを大切にしているかどうか(図8)という点については弱い相関が見られた。

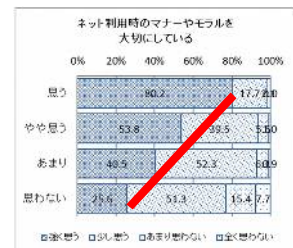


図8 (相関係数 0.33)

②目的意識に関して

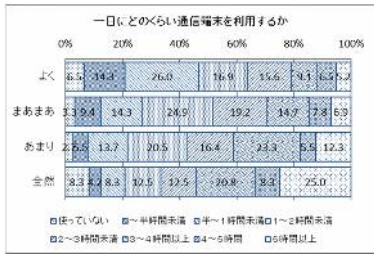


図9

学習への目的意識の度合いと1日あたりの通信端末利用時間(図9)

の相関関係

を見てみると、目的意識が弱い回答をしている生徒ほど長時間使用する傾向にある。事実、この3つのカテゴリーで平均してみると「思う」…106.2分 「やや思う」…133.2分 「あまり」…154.5分 「全然」…183.1分で、1日に5時間以上使っている生徒の割合が「否定的」回答をしている生徒に多い。

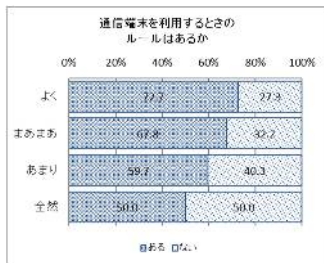


図10(相関係数 0.12)

また、このことは、通信端末を使う上でのルール設定の有無(図10)とも関連しており、相関はほとんどなかった。相関係数は低い

が、「目的意識」が強いほど、ルールを設定している割合は増える。

### ③将来展望に関して

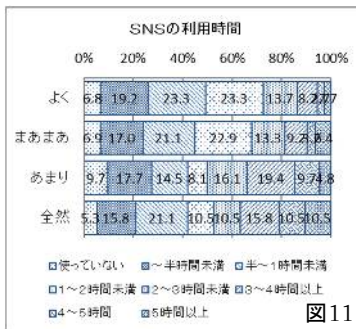


図11

将来を見通した行動をしていると回答している生徒とそうでない生徒でSNSの利用時間(図11)に関するデータを見ると、ここにも将来展望を持つ度合いが弱い生徒ほど長時間利用する傾向が読み取れた。この3つのカテゴリーで平均してみると「思う」…101.4分

「やや思う」…103.8分 「あまり」…105.3分 「全然」…123.4分で、1日に4時間以上使っている生徒の割合が

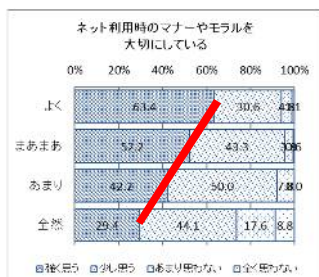


図12(相関係数 0.23)

否定的回答をしている生徒に多い。さらにまた、「ネットマナーやモラルを大切にしているか」との設問に対しては、否定的な回答をした生徒ほど、ネットマナーやルールを大切にしていな

い傾向がある(図12)。 (3) 主体性・目的意識等を持つことと学習に関することとの相関

### ①主体性に関して

主体性と授業内容の理解には弱い相関が見られた(図13)。

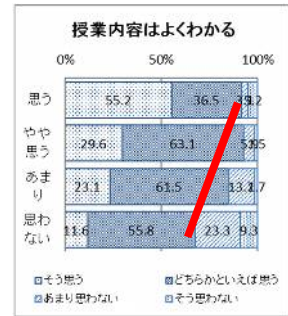


図13(相関係数 0.24)

### ②目的意識に関して

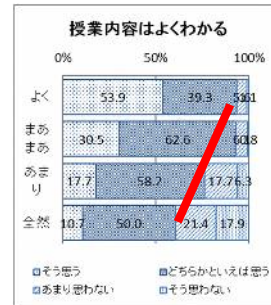


図14(相関係数 0.33)



図15(相関係数 0.28)

「学習に対する目的意識」と、「授業の理解度」(図14)、「学業成績」(図15)はともに弱い相関が見られた。このことは、目的意識を高く持っている生徒ほど、学習時間が長い傾向があることでも明らかである。(図16) (平均時間は「よく」…112.0分、「まあまあ」…77.2分、「あまり」…46.3分、「全然」…17.9分)

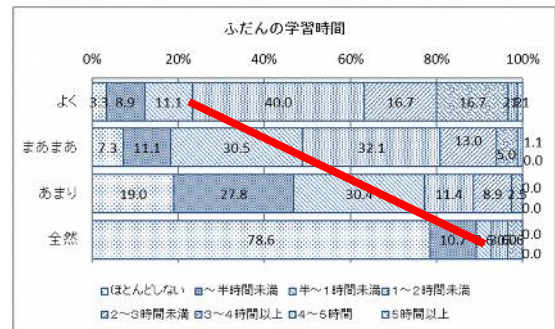


図16(相関係数 0.46)

(4) 主体性・目的意識等を持つことと「社会情

## 勢についての家庭内会話」の相関

それでは、生徒の主体性を培ったり、目的意識を高めたりするための取り組みとして有効なことは何か。そこで、アンケート項目に組み込んだ「④社会情勢についての家庭内の会話」についての結果を見ると次のようになった。

### ① 主体性

「主体性」と「家庭内での世の中の動きに関する会話」には弱い相関がみられた。

(図 17)

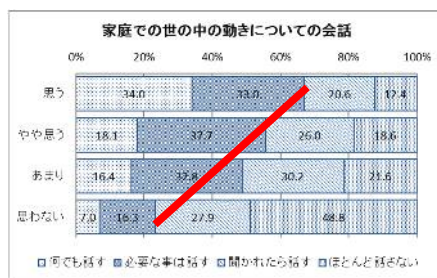


図 17 (相関係数 0.25)

### ② 目的意識

同様に、「目的意識」と「家庭内での世の中の動きに関する会話」にも弱い相関が見られた。(図 18)

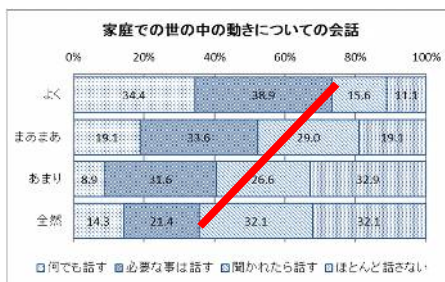


図 18 (相関係数 0.24)

④についてクロス集計したデータを捉え直してみると次のようであった。

### ④社会情勢に関する家庭での会話について

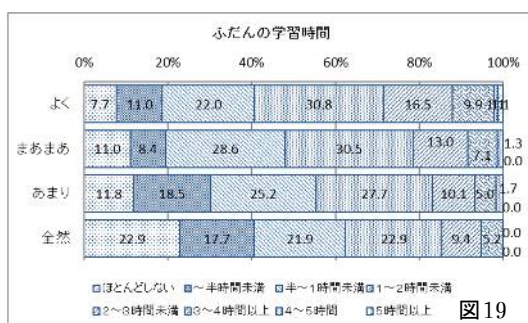


図 19

時間の使い方について、学習時間(図 19)、通信端末を利用する時間(図 20)についての特徴があった。平均学習時間は「よく話す」…91.3分「まあまあ」…79.6分、「あまり」…69.3分、「全然」…58.1分と大きな差があり、会話のないほど「学習時間がない」と回答している生徒が多いことが分かった。

通信端末を利用する平均時間についても、「よ

く話す」…110.6分、「まあまあ」…129.7分、

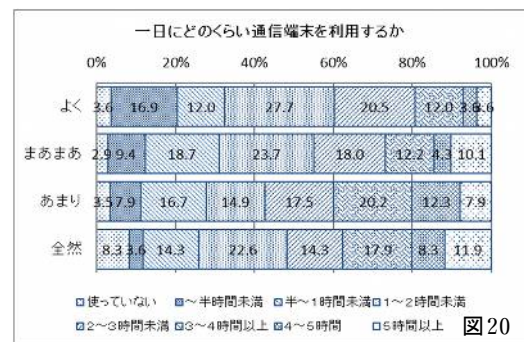


図 20

「あまり」…148.7分、「全然」…148.3分という結果が得られた。

## 4 考察

以上の結果から、次の点が挙げられる。

学力が高い生徒、自制心がある生徒、情報端末を適切に利用できる生徒は、主体性、目的意識、将来展望、社会の動向への関心等が高い生徒である割合が大きい。

学習内容を定着させたり、適切な情報機器の活用ができるように育成したりすることは、自己のコントロール力の育成と同時にしていくと効果的であると思われる。

自己コントロール力を育成するためには、家庭や学校での生徒との関わり方が影響すると思われるが、断定はできないため、この部分はさらなるデータをとって関連性を調査していく必要がある。

### 【参考文献】

・岩森、長谷川、中村 2015:「家庭での会話と中学生の情報通信端末の利用の状況に関する考察」第 31 回日本教育工学会全国大会論文集

・岩森、長谷川、中村 2016:「中学生の社会情動的スキルと情報通信端末の利用状況に関する考察」第 32 回日本教育工学会全国大会論文集

### 【付記】

本研究の一部は、科研費：課題番号(17K04887)基盤研究(C)「道徳的価値と資質・能力の育成を基盤とした情報モラルの指導法に関する研究」に関する研究の一部として行った。